
クサガメとミシシippアカミミガメのバスキングについて

駒 孝太・亀崎直樹

700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学動物自然史研究室

About *Mauremys reevesii* and *Trachemys scripta elegans* busking.

By Kota KOMA and Naoki KAMEZAKI

Okayama University of Science, 1-1 Ridai-chou, Kita-ku, Okayama 700-005, Japan

バスキング行動は一部の爬虫類や両生類で見られ、カメも例外ではない。淡水ガメが行うバスキングは消化の促進やビタミンDの合成、甲羅の衛生状態の保持などが考えられているが、詳細は分かっていない。本研究では1日に行うバスキングの頻度から淡水ガメのバスキング理由について考察した。岡山市にある白壁中池に生息するミシシippアカミミガメ (*Trachemys scripta elegans*) 14個体、クサガメ (*Mauremys reevesii*) 14個体にOnset社製の温度ロガー (UTB-001) を設置し、2017年6月から2020年8月にかけて温度変化を記録した。温度の変化量は一時間に1.0°C以上・2.0°C以上、3.0°C以上の差でパターン分けをし、温度差がある日をバスキングしたと見なした。これを、月ごとにまとめ記録日数より割合を算出した。バスキングの頻度が最も多かったのはアカミミガメ

が6月、クサガメが8月であり、ともに90%近い頻度であった。一方で冬場である12月から翌2月にかけてもバスキングが行われており、特に顕著であったのはアカミミガメの雄で、2月に35%もバスキングを行っていた。なお、アカミミガメは他の月でも雄の方が雌より頻度は高かった。また、クサガメではあまり雌雄差は見られなかったが、2月と10月においては雄の方が高い頻度を示していた。両者ともにバスキングは夏に高く冬に少ないことから、体温調整が問題ではなくビタミンDの生成や体表の衛生管理などが目的であると考えられる。また、冬場であってもバスキングをしていたことから、冬眠をせずに活動しているのではないかと考えられる。特にアカミミガメの雄の活動が多い理由として、冬眠中の雌に対しての交尾を行うためではないかと考えられる。